

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第36週 (9/3-9/9) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	36週	35週	34週	33週
小児科	18	18	17	17
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	26	27	26	26
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	9/3-9/9	8/27-9/2	8/20-8/26	8/13-8/19	8/27-9/2
			36週	35週	34週	33週	35週
小児科	RSウイルス感染症		12	6	16	11	6
	咽頭結膜熱		3	9	7	3	9
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	34	30	24	9	30
	感染性胃腸炎		71	94	55	60	94
	水痘		0	1	1	2	1
	手足口病		23	32	13	14	32
	伝染性紅斑		3	2	3	1	2
	突発性発しん		12	12	13	6	12
	ヘルパンギーナ		16	21	22	28	21
	流行性耳下腺炎		1	1	3	0	1
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		2	0	1	0	0
眼科	急性出血性結膜炎		1	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	○	11	4	7	1	4
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	4
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	2
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(21件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	男性	50歳代	病原体の分離・同定	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	男性	60歳代	病原体の検出	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	男性	70歳代	画像検査	百日咳	女性	10歳代	抗体の検出
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	女性	70歳代	細菌の分離・同定及び薬剤耐性の確認	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
				風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出等
梅毒	男性	30歳代	血清抗体の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出等
播種性クリプトコックス症	男性	70歳代	病原体の分離・同定等	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	女性	30歳代	血清IgM抗体の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	女性	50歳代	病原体遺伝子の検出

*第36週は、結核4件(123)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(12)、梅毒1件(18)、播種性クリプトコックス症1件(2)、百日咳8件(143)、風しん6件(46)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

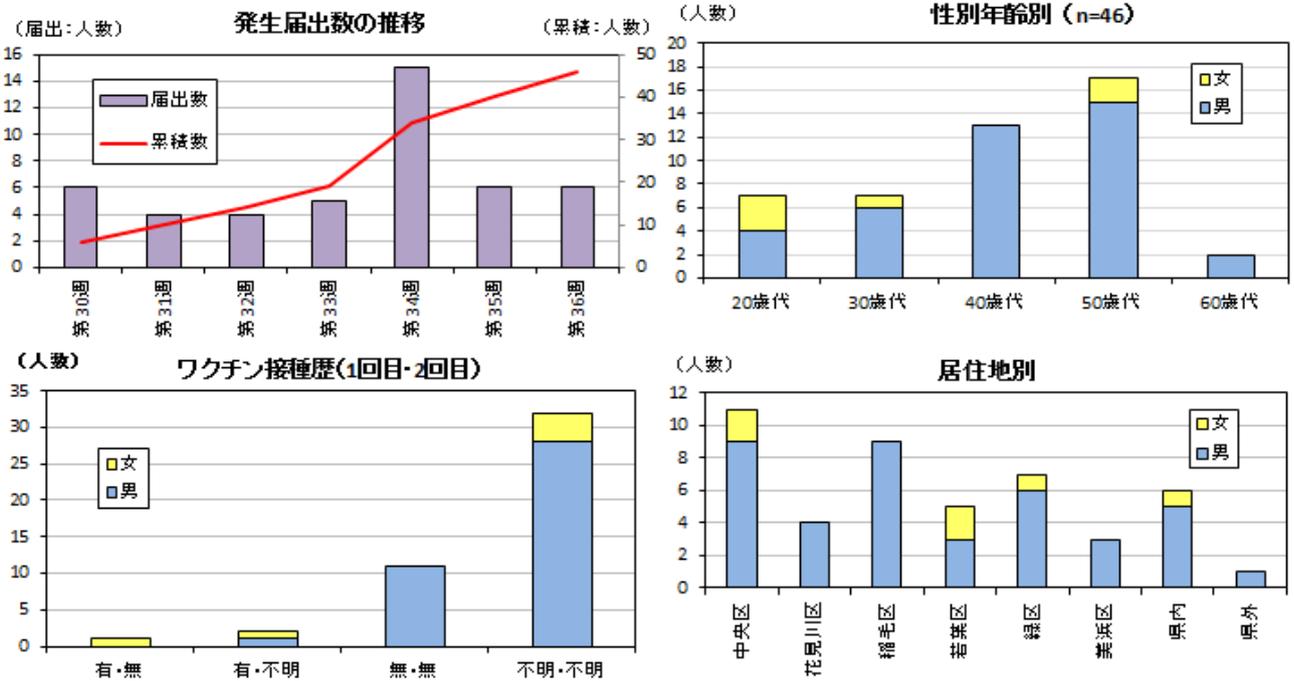
定点当たり報告数 第36週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し1.89となった。過去10年の同時期と比べると多い。
<流行性角結膜炎> 前週より増加し2.20となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

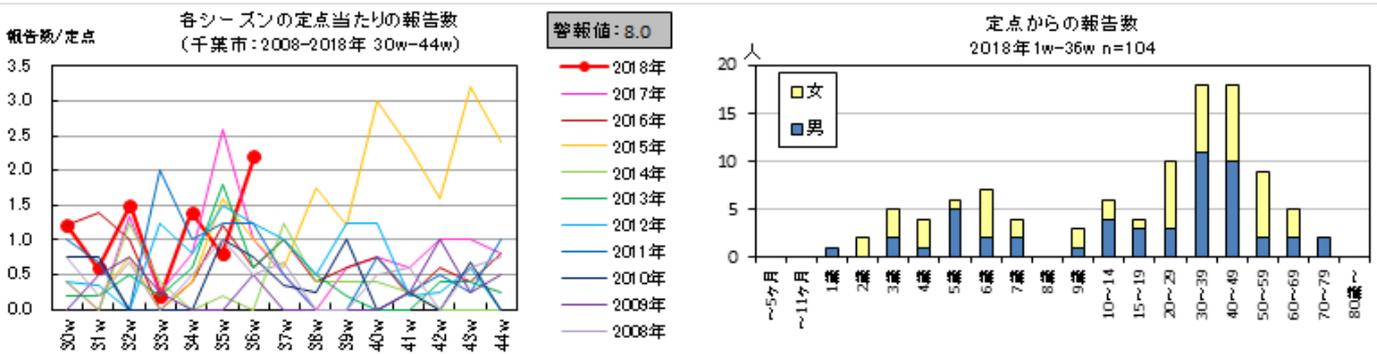
<風しん>

全国レベルの第35週の累積報告数は362件で、昨年の同時期と比べるとおよそ6倍となっています。都道府県別では東京都、千葉県、神奈川県の前で多く報告されており、関東地域で多く発生しています。千葉市では第30週から報告が出始め、第36週は6件の発生届があり、2018年の累計は46件となっています。性別では男性が87.0% (40名)、女性が13.0% (6名)で、いずれも成人で年齢階級別では50歳代(37.0%:17名)、40歳代(28.3%:13名)、20歳代及び30歳代(共に15.2%:7名)の順で多く、40歳代~50歳代が中心となっています。居住地別では、中央区(23.9%:11名)、稲毛区(19.6%:9名)、緑区(15.2%:7名)の順で多くなっています。



<流行性角結膜炎>

全国レベルの第35週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では宮崎県、沖縄県、高知県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の第36週は前週より増加し2.20となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は美浜区(6.0/定点)で最多で、同区の20歳代及び30歳代で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第36週までの累積報告数は104件で、性別では男性が49.0%(51名)、女性が51.0%(53名)で、年齢階級別では30歳代及び40歳代(共に17.3%:18名)、20歳(9.6%:10名)の順で多くなっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第35週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では鳥取県、山口県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の第36週は前週より増加し1.89となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は緑区(4.0/定点)で最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。2018年第36週(新シーズン)の報告数は34件で、性別では男性が58.8%(20名)、女性が41.2%(14名)で、年齢階級別では4歳(32.4%:11名)、5歳(14.7%:5名)、2歳及び6歳(共に11.8%:4名)の順で多くなっています。

